

令和5年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名： 岡山県

農業委員会名： 津山市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和5年4月1日現在)

※ 「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和2年7月20日

任期満了年月日 令和5年7月19日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	11
認定農業者に準ずる者	—	0
女性	—	3
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	35	35	8

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	4,276
農業経営体数	2,632

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	2,480
女性	886
40代以下	119

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	176
基本構想水準到達者	1
認定新規就農者	11
農業参入法人	1
集落営農経営	36
特定農業団体	0
集落営農組織	36

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	4,930	566	—	—	—	5,490

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
	5,490 ha	937 ha	17.1 %
課題	担い手の高齢化、後継者不足が進んでいる。 中山間地域が多く、狭小農地や水路の荒廃など、集積に適した農地が少ない。 集落営農の推進、集落リーダーの育成を図ることが必要。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	令和11 年度	集積率	23.1 %
今年度の新規集積面積	57 ha	農地面積(C)	5,490 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	994 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	18.1 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③ 実績

今年度の新規集積面積	72.9 ha	農地面積(F)	5,480 ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	1,010 ha	今年度末の集積率 (H)=(G)/(F)	18.4 %
目標に対する達成状況(H)/(E)	101.8 %		

農業委員会の 点検結果	平坦で圃場整備が進み農道へのアクセスのよい地域では集積集約化が進んでいるが、山際・谷沿いの狭小農地や日照条件の悪い農地は集積が困難である。 集落営農組織等により農地中間管理機構の活用が進んでいる。
----------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2) 遊休農地の発生防止・解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	116 ha	56 ha	60 ha
農家の高齢化や不在地主の増加等、担い手の不足により耕作放棄地が増加している。 農作物価格の下落や鳥獣害により離農が進んでいる。			

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	41 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	8.2 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	60	ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	県、市、農地中間管理機構等と協議し、黄区分の遊休農地の解消のための工程表を策定する。	

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	-	ha
---------------------------	---	----

③実績

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	8.6	ha
今年度の目標に対する達成状況(D)/(C)	104	%

b 黄区分の遊休農地の解消

黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	県、市、農地中間管理機構等と協議中。
-------------------------	--------------------

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	-	ha
---------------------------	---	----

④その他

農地の利用状況調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	4月～3月		4月～3月	
1号遊休農地の面積	14.6	ha	うち緑区分の遊休農地	13.4 ha
			うち黄区分の遊休農地	1.2 ha
農地の利用意向調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	2月～3月		3月	

農業委員会の点検結果	担い手の高齢化や後継者不足により今後も増加が予想される。交付金事業を活用し、地域ぐるみでの発生防止に努める必要がある。調査を継続し、早期発見・早期指導を行っていく。
------------	--

(3) 新規参入の促進

①現状及び課題

現状	2年度新規参入者		3年度新規参入者		4年度新規参入者	
	8	経営体	18	経営体	17	経営体
	3.1	ha	6.6	ha	8.1	ha
課題	農業体験や地域との交流の場を増やす。 新規就農している人の現況、意見、感想を聞く機会を増やす。 地域の受け入れ環境を整え、経営が定着するまで就農支援をする必要がある。 支援体制や支援制度の周知、地域情報の発信を引き続き行う。 下限面積の廃止を期に、就農希望者を募り、有効利用を促す。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標

権利移動面積	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
	223	204	235	221
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積(A)	22.1		ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。))及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)		0.0	ha
公表URL	-	(その他の公表方法)	-
目標に対する達成状況(B)/(A)		-	%
(参考)新規参入者の参入状況		参入経営体数	29 経営体
		取得農地面積	5.4 ha

農業委員会の点検結果	新規就農者の掘り起こしや農業体験を行った。 経営が安定するまで引き続き農地の確保や技術の支援を行っていく。 今後は農業で生活できるようさらなる補助制度や地元との関係が深まるような支援が必要。
------------	---

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	18 人
		農地利用最適化推進委員の人数	35 人

(2) 活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
12月・1月・2月	農地の集積	農地の実態把握を行い、農地所有者の考えを聞き、中間管理機構への紹介等の活動を行う。 農家組合や水利組合の総会等で協議したり、担い手との情報交換などを図り、集積推進を図る。
12月・1月・2月	遊休農地の解消	所有者に対して適正な管理を行うよう指導していく。 早期発見、早期指導を図っていく。 地域の組織にて共同管理を行う。
12月・1月・2月	新規参入の促進	農業体験等によって新規就農を推進していく。 新規就農希望者の情報収集に努める。 就農しやすい環境を整える。 農業で安定経営できるまでの支援を行う。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の結果
12月・1月・2月	農地の集積	地域の話合いで土地所有者・担い手の情報収集、情報共有に努めた。農地中間管理機構の周知に努めた。
12月・1月・2月	遊休農地の解消	農地パトロールにより遊休農地の早期発見・早期指導に努め、所有者に対して適正な管理を行うように指導した。 遊休農地活用のため地域の営農集団と雑草処理を行ったり進入路の整備を提案した。 地域で土地所有者の事情を共有し、管理の方策を検討した。
12月・1月・2月	新規参入の促進	新規就農者の面談、相談対応を行った。 農業体験の場を通じて、新規参入者と地元の相互理解に努めた。 新規参入者に農地所有者を照会した。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間中に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加

①目標

新規参入相談会への参加回数	1 回
---------------	-----

開催時期	令和6年2月	相談会名	晴れの国岡山就農セミナー&相談会(仮称)
参加者数	1名	開催場所	岡山市内
相談会の内容	新規就農者への情報提供及び就農相談		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

②実績

新規参入相談会への参加回数	1 回
---------------	-----

開催時期	令和6年1月10日	相談会名	津山北地域営農推進協議会
参加者数	1名	開催場所	津山市
相談会の内容	ブドウ団地整備に係る農地相談。		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の評語

目標に対して期待通りの結果が得られた。

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	1
目標に対し期待を上回る結果が得られた	0
目標に対して期待どおりの結果が得られた	73
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	0

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入

Ⅲ 事務の実施状況

都道府県名： 岡山県
 農業委員会名： 津山市農業委員会

1 総会、部会の開催実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考(定例開催以外の理由)
総会	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	改選に伴う総会の開催(7/20)

※ 総会又は部会の月ごとの開催回数を記入

2 農地法第3条に基づく許可事務

1年間の処理件数		202 件	うち許可	202 件		
処理期間	実施状況	標準処理期間	申請書受理から	25 日	処理期間(平均)	25 日
	総会開催日の公表	公表している	していない	申請書締切日の公表	公表している	していない

3 農地転用に関する事務(意見を付して知事への送付)

権限移譲の状況 (当てはまるものに○)		・農地法第4条第1項の規定に基づく指定市町村に指定			
	○	・地方自治法第252条の17の2第1項に基づき市町村長へ事務委任			
		・地方自治法第180条の2に基づき市町村長から農業委員会へ事務委任			
1年間の処理件数	161 件	うち許可相当	161 件	うち不許可相当	0 件
処理期間	標準処理期間	申請書受理から	40 日	処理期間(平均)	30 日

4 違反転用への対応

現 状	管内の農地面積	年度末時点の違反転用面積
	5,480 ha	5.2 ha
違反転用解消のために実施した活動内容	農地パトロール(1回～3回/月)、農地の転用に係る情報発信(広報・HP) 等	
実 績	違反転用解消面積	1.8 ha

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 違反転用面積は、管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定に違反して転用されている農地の面積を記入

※3 活動内容は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何日何を行ったのか等について具体的に記入